

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年7月)

発表日：2006年9月13日(水)

～稼働率は高水準、生産能力指数は緩やかながらも上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
06	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5
	4-6月	1.0	1.5	0.4	10.6	2.4	1.9	0.3	0.7	1.6	6.0	0.1	1.8
05	7月	▲1.4	▲1.3	0.8	▲3.0	▲3.4	▲3.6	0.0	0.1	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲1.7	▲0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7
06	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
	2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5
	4月	2.4	1.0	▲1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5
	5月	▲2.5	1.5	4.2	14.5	▲10.5	0.4	0.1	0.8	0.3	6.1	0.1	1.9
	6月	2.2	2.1	▲0.3	10.4	7.2	3.7	0.0	0.7	0.0	5.6	0.0	2.0
	7月	▲0.7	2.9	▲1.6	7.9	▲1.6	5.6	0.2	0.9	1.1	6.7	0.0	2.0

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比▲0.7%と2ヵ月ぶりに低下

7月の稼働率指数は前月比▲0.7%と2ヵ月ぶりに低下した。業種別にみると、15業種中8業種で上昇し、6業種で低下、1業種で横ばいとなった。

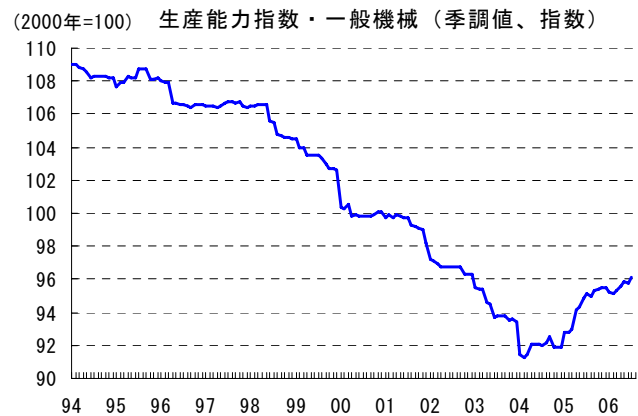
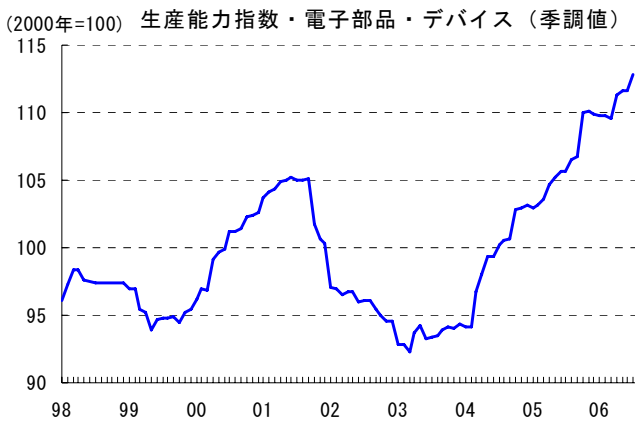
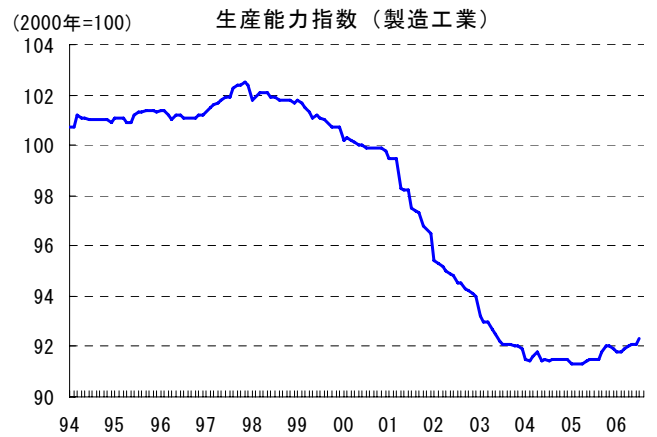
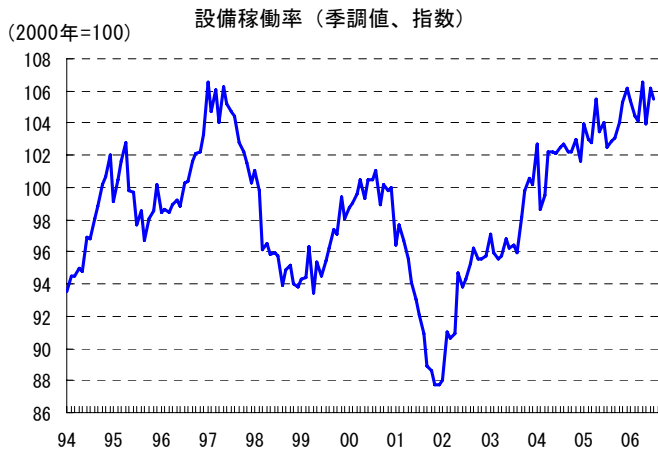
情報通信機械工業(前月比+9.6%)や化学工業(同+3.7%)が稼働率の上昇に寄与したが、電気機械工業(同▲9.0%)や一般機械工業(同▲2.8%)、電子部品・デバイス工業(同▲1.6%)、輸送機械工業(同▲1.6%)では低下した。主要業種での低下が目立ったが、前月までこれらの業種では生産が大きく増加していたことから7月に反動減があった。このため7月は稼働率も前月から低下したものの、引き続き水準は高い。

製造工業の生産予測指数では8月に前月比+4.2%、9月は同▲1.4%が見込まれている。目先の生産は堅調に推移する見込みであるが、先行きは輸出の減速が明確化してくること、電子部品・デバイスなどでは生産調整が行われる可能性があること等から生産の増加テンポは鈍化してくると考えられる。もともと、非ITセクターが堅調なことや輸出の減速やITの調整も大きなものとはならない公算が大きいことから、先行きも生産は底堅く推移すると考えられる。したがって、稼働率も一本調子での上昇は見込みがたいものの、高水準での推移が続く可能性が高い。

○ 生産能力指数は前月比+0.2%と上昇

7月の生産能力指数は前月比+0.2%と上昇した。電子部品・デバイス工業が同+1.1%、電気機械工業が同+0.6%、一般機械工業が同+0.3%と上昇したことが生産能力指数を押し上げた。各種アンケート調査では、高めの設備投資計画となっていることに加え、設備投資における能力増強投資のウェイトも上昇傾向に

ある。日銀短観の設備判断D Iにおいても先行き不足感が高まる予測となっていることから判断すれば、生産能力の拡大余地は小さくない。企業の成長期待は高まっており、生産能力指数は緩やかながらも上昇傾向が持続すると考えられる。



○ 鉱工業生産の確報は速報と変わらず

7月の鉱工業生産指数確報は、前月比▲0.9%と速報段階と変わらなかった。一方、出荷指数は同▲0.5%（速報同▲0.6%）、在庫指数は同▲0.7%（速報同▲1.0%）、在庫率は前月比+5.1%（速報同+4.5%）とそれぞれ上方修正となった。基本的には速報段階と同様の姿であることから生産活動に対する見方に変更はない。輸出の増加ペースの鈍化やIT分野での調整圧力の高まりには留意が必要だが、非ITセクターが堅調なことや輸出の減速やITの調整も大きなものとはならない見込みであることから、先行きも生産活動は底堅く推移すると考えられる。